１月２日から８日まで、昨年のルネッサンス事業で出会ったシンガポール青年とマレーシア青年を訪ねてきました 。

シンガポールでは教育コースの Son Wei Meng さん、リーダーシップコースの Ho Meng Wai さん、マスコミコースの Lee Wai さんが私のアテンドをしてくださり、お互いの再会を喜びました。2日間の間ずっと私と行動を共にしてくれた３人にとても感謝しています。マレーシア行きの夜行電車乗る時はプラットホームまで見送ってくれて別れを惜しみつつ、再会を約束しました。

▲マーライオンの前でウェイミンと	▲中華料理を食べながら	▲シンガポール駅プラットホームで見送ってくれる

マレーシアでは教育コースの Aida Bt. Kassim のお宅でホームステイをさせていただきました。ホームステイをさせていただくことで、アイダの家族と仲良くなっただけではなく、マレーシアの家庭の様子や料理などを体験することができて本当にアイダに感謝しています。

アイダのご家族にはホタルを見に連れっていただいたり（小船に乗りながら河岸に生息する無数のホタルを見ました。まるでクリスマスツリーのようできれいでした）、クアラルンプールのツインタワー・最高裁判所など観光にも連れて行っていただきました。

アイダファミリー	ホタル見学ツアー

しかし何よりもアイダが勤務している小学校に訪問させていただけたことが一番心に残っています。

小学校訪問当日は、マレー人女性の民族衣装を貸してもらい、着替えて小学校に行きました。アイダのクラスに入ると、子供たちの好奇心いっぱいのまなざしで出迎えられました。アイダの生徒たちは日本からのゲストとして私をとても礼儀正しく歓迎してくれました。アイダが私のことを紹介すると子供たちは笑顔で私を見つめてくれました。そしてアイダが「もしよかったら日本のことをみんなに教えてみない？」といってくれ、急なことでびっくりしましたが、「ぜひ！」と返事し、急遽日本のクラスをすることになりました。しかし考えてみるとお土産としてけん玉・だるま落とし･折り紙を持ってきただけで、特に教材はなかったので、まずは簡単な日本語のあい

さつと数字を教えることにしました。マレーシアでは小学校から英語を教えられているようで、マレー語が全くわからない私は英語で授業をしました。「Good morning は“ おはようございます ”と言います」と教えた後に、「マレー語ではなんていうの？」と聞くと「selamat pagi　（スラマッ　パギ）です。」とお互い教え合いながら進めていきました。小学生の彼らは覚えるのがとても速く「もっと、もっと！」と言うぐらいに意欲的でした。

数字と簡単なあいさつを教える

日本語を使ってフルーツバスケット

折り紙教室

一通り終えたあとは覚えた数字を使ってビンゴをしたり、日本語を使ってフルーツバスケットしたりしました。当初緊張気味だった子供たちも、ゲームが始まってすぐ緊張がほぐれ、子供は遊びを交えた学習が大好きであることは万国共通でした。

それからお土産として持ってきた折り紙でツルの折り方も教えました。最後まで何を折っているか明かさず進めたので、最後にツルが出来上がった時は感激していた様子でした。

おりづる完成☆

みんなでピース！！

似顔絵を描いてくれました

あっと言う間に時間は過ぎ、別れの時間になりました。生徒たちは一人ずつお礼を言ってくれ、「ありがとうございました、アキ先生！」と日本語で言ってくれる生徒もいました。「明日も来るの？」「次はいつ来るの？」と聞いてくれる生徒もいて、また戻って来たいという思いでいっぱいになりました。私は日本で教師をしていますが、改めて学校が好きだと再認識した体験でもありました。

ウェイミン、メンワイ、リーワイ、アイダとはルネッサンス事業で出会いましたが、その出会いがシンガポールとマレーシアを訪れたいと言う気持ちになり、マレーシアでは小学校の生徒たちとの出会い、そして生徒たちに日本のことを伝える機会を持つことになり･･･、もしかするとアイダの生徒が、私や授業のことを周りの人に話しているかもしれません。そう考えると、２００１年に航空機派遣でスウェーデンに行ったことから、日本国内に限らず世界にネットワークがどんどん広がっていることを実感しました。派遣当時は２００３年に私がルネッサンス事業に参加し、２００４年にマレーシアにアイダを訪ね、小学校に訪問する機会に恵まれるとはまさか思いもしていませんでした。派遣事業やルネッサンス事業も貴重な出会いの場であり、その後築いたネットワークをどのように活かしていくかは参加者の気持ち次第でどこまでも夢は広がると思います。これからも交流の“ 種 ”を広げ、育てて行きたいと思っています。

航空機派遣に参加した私にとってルネッサンス事業は、世界船・東ア船参加者とも交流できたのでとても新鮮でした。違う事業に参加していても、「派遣事業に参加してよかった」と言う気持ちは皆同じで気持ちもすぐ通じ合うことができました。これからもできる限り事後活動や関連事業に参加してネットワークを広げていくとともに、出会った人たちとお互い刺激をし合って、自分を高めていきたいと思っています。次はどこの国の参加者を訪ねようか考えるだけでワクワクしています☆